

事業シート（概要説明書）

事業名	津山老人福祉センター運営事業	担当部名	環境福祉部
		担当課名	高齢介護課
事業開始年度	昭和47年度		
根拠法令等	津山市補助金等交付規則		
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託又は指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金（補助先：津山市社会福祉協議会） <input type="checkbox"/> その他		
事業概要	目的 (何のために)	高齢者に対し、健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための総合的な場を提供し、高齢者の健康で明るい生活を増進する。	
	対象 (誰・何を対象に)	高齢者(講座、ミニデイ、老人クラブ等)	
	事業内容 (手段、手法など)	津山老人福祉センター(津山市社会福祉協議会所有)の管理・運営に対し補助	
	事業の必要性	高齢者の閉じこもり防止や生きがい対策として本事業の必要性があると考え。設立からおよそ40年が経ち、各地域での活動も公民館活動などを中心に活発になり、市内全域を対象とした活動の場としての必要性は薄れつつあるが、地域での活動に参加できない人や老人クラブの活動の場として、存続していく必要があると考え。	

【支出】		H19決算	H20決算	H21決算	H22予算
事業費（直接経費） 千円		12,933	12,527	11,301	11,301
うち	嘱託職員・ 臨時職員等	従事者数 人			
	概算人件費 千円				
人件費	正規職員 (平均給与750 万円換算)	従事者数 人	0.1	0.1	0.1
	概算人件費 千円	750	750	750	750
総事業費 千円		13,683	13,277	12,051	12,051
【収入】		H19決算	H20決算	H21決算	H22予算
国・県からの補助金等 千円					
使用料・手数料 千円					
地方債 千円					
その他( ) 千円					
【収支】市の負担額（一般財源） 千円		13,683	13,277	12,051	12,051

事業シート（概要説明書）						
		内 容			金 額	
平成22年度 事業費内訳	負担金補助及び交付金			11,301	千円	
					千円	
					千円	
					千円	
事業目的達成の ための活動指標	活動指標名	単位	H20年度実績	H21年度実績	H22年度見込	
	利用者延べ数	人	18,953	17,936	18,000	
単位当たりコスト	11,301 (千円) / 17,936 (人) = 630 (円) 【 H21年度実績 人件費を除く 】					
目指す成果 (今後どのように したいか)	福祉施設等ありかた検討委員会の答申に沿った事業運営に対し補助を行う。					
事業の 自己評価	事業目的の 達成状況	設置当時は、高齢者の全市的な集いの場所として津山老人福祉センターは必要な施設であったが、現在は、高齢者が増加し、地域単位での活動も活発になり、当初の目的はほぼ達成されている。				
	今後の事業 の方向性 (課題・改善 計画等)	今後の施設の管理運営方針は、津山市社会福祉協議会の判断を待つことになるが、当面、福祉施設等ありかた検討委員会の答申に沿った事業運営に補助を行う。				
比較参考値 (他自治体における 類似事業の例など)	設置当時 S47.12.31現在：人口76,880人、高齢者7,741人 高齢化率10.06% (公民館数12) 平成22年10月1日現在：人口108,123人 高齢者26,952人 高齢化率24.93% (公民館数 22)					
特記事項 (事業の沿革等)	福祉施設等ありかた検討委員会において ①温泉設備への修繕費用は、市費を投入はするべきではなく、入浴機能が必要であるならば、入浴料を徴収しながら運営を行うことや、また利用が少なれば入浴施設を閉鎖することも検討すべきであるとの意見がありました。 ②機能を集会所・貸館だけに集約し、施設自体を地元等へ移譲することも選択肢の一つとして検討したほうが望ましいとの意見が多くありました。 ③新築等については、必要ないとの結論になり、津山老人福祉センターが今まで担ってきた機能を、めぐみ荘等へ移行させるべきだとの意見もありました。 との答申が出されています。					